



学校だより

第191号
令和元年12月2日
北区立桐ヶ丘郷小学校
校長 朝倉 靖雄

鷗外・漱石と「豊かな言語生活」

校長 朝倉 靖雄

明治の二大文豪、森鷗外・夏目漱石には共通点があります。それは、漢籍の素養です。

森林太郎は六歳で「論語」、七歳で「孟子」の素読を学んだ。八歳になると四書（大学・中庸・論語・孟子）、五経（易経・書経・詩経・礼記・春秋）、左伝、国語、史記、漢書を復読した。少年林太郎が学んだ儒教的な教養は身にしみこんで、鷗外の人となりの根本はこれによって決定づけられた。

年齢を偽り弱冠十三歳で東京帝国大学医学部に入り、のちにゲーテの「ファウスト」やアンデルセンの「即興詩人」等の翻訳でも知られる外国語の達人になった鷗外の言語生活の基礎には、漢文（漢籍）の素養があったことは有名であります。

夏目漱石は『文学論』の序文で次のように述べています。「余は少時好んで漢詩を学びたり。之を学ぶ時短きにも関わらず、文学は暫くの如きものなりとの定義を漠然と冥々裏に左国史漢より得たり。ひそかに思ふに英文学も亦かくの如きものなるべし。」

「我が輩は猫である」「坊っちゃん」「明暗」等で知られた国民的文豪の漱石は、一方で松山中学、第五高等学校、東京帝国大学で英文学者として教鞭をとっていましたが、その言語生活の基礎に、やはり漢文（漢籍）があったのです。

翻って、義務教育の12年間とりわけ小学校の6年間は個人の言語能力形成にとって計り知れない重要な時期です。鷗外・漱石のように外国語に習熟し達人となる前提として、国語の基盤である「漢文」を幼少期に徹底的にたたき込まれていたという事実は見逃すわけにはいきません。豊かな言語生活という視点で大切なのは、やはりご家庭での親子や家族とのコミュニケーションです。人としての関わりの豊かさ（言葉のシャワー）がその子の後の人生の豊かさを決めてしまいます。学校生活では教師が、家庭生活では親が、責任をもって子どもたちの豊かな言語生活を確保してあげたいものです。

12月行事予定

日	曜日	行事
1	日	
2	月	全校朝会 委員会（6年：写真撮影）
3	火	避難訓練（2年：起震車体験）
4	水	B4
5	木	B5 個別懇談①
6	金	B5 個別懇談②
7	土	土曜公開 桐郷フェスティバル
8	日	
9	月	B5 個別懇談③
10	火	B5 個別懇談④
11	水	安全指導
12	木	縦割り班給食・遊び
13	金	水曜時程 学校保健委員会
14	土	
15	日	
16	月	全校朝会 A5
17	火	社会科見学（6年）
18	水	法教育（4年）
19	木	社会科見学（3年）
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	クラブ
24	火	
25	水	全校朝会 給食あり
26	木	冬期休業日始
27	金	閉庁日
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

☆「桐郷フェスティバル」 12月7日(土)☆

特活主任

毎年子どもたちが楽しみにしている桐郷フェスティバルが、いよいよ実施されます。各クラスから募集した言葉をもとに、代表委員会が話し合っただけで決めた今年のスローガンは「令和初！笑顔はじける心がおどる、みんなで楽しむフェスティバル」です。今年も、みんなが笑顔になれる楽しい行事にしよう、という意気込みが伝わってきます。

各クラスで、お店の内容や何を用意するか、誰がどの係を担当するかなど、自分たちで話し合いながら準備を進めています。当日はもちろんですが、そこに至るまでの過程がとても大切です。自分の意見を発信し、学級で考えをまとめる際には意見がぶつかることもあります。また、自分の意見が全て通らないこともあります。そうした中でも折り合いをつけ、なるべく皆が納得して活動できるように話し合うことができました。また、与えられた役割をしっかりとこなすこと、困っている人がいないか人手不足の場所がないかを探し、積極的に行動することなどを通して自主性や協調性を育てるとともに、いろいろな方々との交流を通して、学校や地域を愛する心も育てていきたいと思っています。

保護者、地域の方もこの機会にぜひお越しいただき、生き生きと活動する子どもたちの様子を近くでご覧ください。そして励ましの言葉をかけて頂きますようお願いいたします。

☆展覧会感想☆

トーテムポールで、はなとまゆげをつけて、本ものみたいにしました。カップだけじゃものたりないので、たまごのパックもつけました。1年生のケーキのかざりやケーキの色がきれいで、どれも食べたくなりました。

わたしは、5年生のスケルトンランプが音と光が合わさってとてもきれいだと思いました。わたしは、今年2年生ですが、次のてんらん会で5、6年生のような、かっこよくてすてきな作品をつくりたいです。そう思うと今からとっても楽しみです。

ぼくは、はじめてのてんらん会は、思っていたいじょうにすごかったです。ほかの学年の作品も作ってみたいになりました。1年生と2年生いっしょにたすけあって作ったビッグツリーは、大せいこうしてうれしかったです。3年後もうまく作りたいなと思います。

てんらん会を見て、とてもすてきだったのは全部です。一人一人が一生けん命作った気持ちが伝わってきました。みんながていねいに作ったので、とてもきれいに仕上がっているんだなと思いました。

「2つの世界」というエッグワールドを作りました。粘土でアザラシを作ったり、海の中を表現するために、青色のスズランテープに黄色を加えたりして工夫しました。スズランテープの中に紙粘土を入れて透明感を出したくらがげが自慢です。

わたしは、五年生の「たたきぞめランチョンマット」の作品を見て、とてもおどろきました。さいほうは、5年生から学ぶのに、とてもすてきなステッチだったからです。葉も本物のように見えました。来年の家庭科の学習が楽しみになりました。